

平成22年度 下阪本小学校 学校自己評価			A: 優れている B: 良好である C: やや課題あり D: 改善の必要あり		学校関係者評価		今後の改善に向けて		
評価項目		評価	中項目評価		中項目評価	評価に対する説明			
I 基礎基本の徹底とわかる喜び、できる楽しさを実感できる学習指導									
確かな学力	少人数指導、教科担任制など指導体制、指導方法の工夫改善	A	B	『一部教科担任制』授業を受けた児童の94%（前年度比同数）、保護者の約96%が「良かった」と考えていただいている。しかし、11%の児童が「集中できなかった」と回答していることから、今後、一人ひとりの児童に対するよりきめ細かな支援を実施していくことが望まれる。なお、今年度は、理科学生ボランティア2名にも26日間ほど来校いただき、児童支援いただいた。また、『学習ルール、学習習慣の確立』については、再度、教職員間の共通理解を図り、共通実践していくことで、より定着を図っていききたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組まれている内容は良く、そのことは保護者や児童の評価の高さからも伺えます。11%の児童が「集中できなかった」という回答は無視できないとは思いますが、ある意味限界を感じます。 ・たくましく子ども一人ひとりを見ることで、教師の見方、捉え方の幅が広がるので、教科担任制は指導方法として有意義と考えられる。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・あらゆるところ、様々な視点でいろいろな社会資源を使い、工夫していただいているので驚いています。 ・小学生時代の良い思い出として、児童の心に深く刻み込まれていくことと思います。 ・日頃の尽力に敬意を表します。今後も児童数も増加し大変だと思いますが、前向きな指導を宜しくお願いします。 ・老人クラブの方々の体験学習に対する考えを、一般の人たちにも伝え、協力する必要があると感じる。 ・地域の子どもたちと教育をされていると感じました。地域の中には、子どもの教育に熱心に関わってくださる人々がおられることにありがたさと感謝です。 ・地域の人々とながれる機会、幼稚園児、大学生ボランティア、現職の技術者、体験談交流及び読書習慣も大切な取り組みだと思います。・下阪本小学校だけではなく、全般的に子どもの読書力は弱いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、平成18年度より一部教科担任制を導入している。このことについては、多くの児童・保護者より支持いただいているところであるが、今後、教師の専門性をより重視しながら児童の確かな学力の定着をめざしていききたい。また、学習ルールについては、今後も、各学年において、各学年部において、更には全校においてなど、系統だったルールの確実な定着を図っていききたい。 ・体験活動については、今後も、評価を加えながら、継続、発展させていきたい。 ・読書活動については、今後、授業において、より充実した読書活動の取り組みを各学年において実施していきたい。 		
	各種体験活動の積極的な実施	A						A	<ul style="list-style-type: none"> ・「昔遊び」体験や「昔の道具」を使用した生活体験など各学年ごとに体験活動を取り入れている。5年の田植え・稲刈り・脱穀体験では、地域の方に指導いただくと共に保護者ボランティアにもサポートいただいた。 また、教科・総合等でゲストティーチャーに来校いただき、児童が見聞を広げることができた。その中でも、特に6年で実施した『ようこそ！大先輩』では、獣医さん、パティシエさん、アウトドアスポーツインストラクターさん、ソーラーシステムエンジニアさん、鉄道運転士さんなどに貴重な体験談を聞かせていただいた。 ・毎朝、10分間の全校読書タイムを設定している。また、読み聞かせボランティアの方々にも、定期的に来校いただき、児童への読み聞かせをしていただいている。今後は、各学年に応じて、各学期の中で、取り組む単元を決め、音読、群読、暗唱等に力を入れていきたい。
	活動後の発表会等学習のまとめ	A							
体験活動	発表会等への保護者等の参加	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、10分間の全校読書タイムを設定している。また、読み聞かせボランティアの方々にも、定期的に来校いただき、児童への読み聞かせをしていただいている。今後は、各学年に応じて、各学期の中で、取り組む単元を決め、音読、群読、暗唱等に力を入れていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地道にこつこつ・細く長い取り組みであってほしいものです。 ・今後も、自分の生命をもっと大切に教育を展開して行ってほしい。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。・滋賀県教育会より、顕彰されるとのこと、おめでとうございます。 ・悲しい事故を今も忘れず、思いやりや命の大切さを伝え、学ばせていくことは良い。 ・校園は、人との関わりを覚えていく大切な場である。あたりまえのことを、あたりまえにできるよう、日々、努力できればと思う。 ・命の大切さや周りを気遣う心を養っているような環境作りのためには、大人もしっかりと襟を正す必要性を痛感しています。 ・今後も続けてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、道徳の授業を通して、更には学校教育全体を通して、児童に道徳的実践力を培っていくことができるよう取り組みを充実させていきたい。 		
	読書環境の整備や地域人材等の活用	A							
読書活動	週一回以上の全校一斉読書	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的で、イメージが乏しい子どもたちが増えてきているので、園でも読み聞かせに力を入れている。小学校につながっていくことを期待している。 ・学校離れが進み、読んで物事を判断し、理解する能力の向上は、是非力強く進めていただきたいことの一つです。今後も少しでも多くの時間を活字に触れられるように読書指導をお願いします。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地道にこつこつ・細く長い取り組みであってほしいものです。 ・今後も、自分の生命をもっと大切に教育を展開して行ってほしい。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。・滋賀県教育会より、顕彰されるとのこと、おめでとうございます。 ・悲しい事故を今も忘れず、思いやりや命の大切さを伝え、学ばせていくことは良い。 ・校園は、人との関わりを覚えていく大切な場である。あたりまえのことを、あたりまえにできるよう、日々、努力できればと思う。 ・命の大切さや周りを気遣う心を養っているような環境作りのためには、大人もしっかりと襟を正す必要性を痛感しています。 ・今後も続けてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、道徳の授業を通して、更には学校教育全体を通して、児童に道徳的実践力を培っていくことができるよう取り組みを充実させていきたい。 		
	読書環境の整備や地域人材等の活用	A							
	音読、群読、暗唱等発表の場の設定	B							
II 共感的な人間関係性と当たり前ができる力の育成									
道徳教育	生命を尊重する心や公共心、公德心などの道徳的実践力を育てる活動の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、過去の悲劇を二度と繰り返さないよう、年に一度、『心輝く希望の集い』を開催し、生命の大切さを学習する機会を設定している。また、アンケート結果では、84%（前年度比同数）の児童が「命や思いやりについて学級で考えたことがある」と回答し、保護者の93%（昨年度比1%増）が「学校は、思いやりや命の大切さ・社会のルールについて適切に指導している」と回答いただいている。 ・全学年において、年間に一度は、授業参観時に道徳の授業公開を実施している。また、道徳の授業の実践事例研究会を開催し、道徳の授業における教員の指導力の向上に取り組んでいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地道にこつこつ・細く長い取り組みであってほしいものです。 ・今後も、自分の生命をもっと大切に教育を展開して行ってほしい。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。・滋賀県教育会より、顕彰されるとのこと、おめでとうございます。 ・悲しい事故を今も忘れず、思いやりや命の大切さを伝え、学ばせていくことは良い。 ・校園は、人との関わりを覚えていく大切な場である。あたりまえのことを、あたりまえにできるよう、日々、努力できればと思う。 ・命の大切さや周りを気遣う心を養っているような環境作りのためには、大人もしっかりと襟を正す必要性を痛感しています。 ・今後も続けてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、道徳の授業を通して、更には学校教育全体を通して、児童に道徳的実践力を培っていくことができるよう取り組みを充実させていきたい。 		
	道徳の授業研究や資料の整備、交流	B							
	保護者への道徳の授業公開	A							
III 信頼を基盤とした心の通い合う指導の充実									
生徒指導	校内の生徒指導、教育相談体制の確立と組織的な推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席の多い児童や生活基盤が弱く登校しづらい児童への登校支援を行ったり、心の不安定さから教室で過ごしづらい児童へのケアを行ったりしている。 ・教育相談も必要に応じて受けていただけるよう、適宜、保護者にお知らせをしており、多くの保護者が利用していただいている。問題行動等については、万引き0件、喫煙0件、家出1件、交通事故1件である。家出については、警察に捜索いただき、無事発見されている。 ・アンケート結果では、79%（前年度比3%減）の児童が「生活目標を守っている」と回答しているが、今後も、その指導の徹底を図っていききたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・子育て支援と重複するところではありますが、校外の子どもたちの姿がどのくらい学校に伝わっているでしょうか。大型量販店でのこと、広域で動く子どもたち。アンテナを張ってもらっていますか。 ・長い目でよく取り組んでいただいています。子どもを信じて待つということなんだと感じています。 ・日々、先生方が努力しておられるのが、交流等を通してよく分かる。 ・子どもたちの閉ざされた心の扉を開けるのは大変なことではないと思いますが、今後も粘り強い指導をお願いします。問題行動については、保護者と連動して良い方向に効果を上げています。やはりこの問題は、家庭の環境によって大きく左右されるものだと考えるからです。 ・欠席の多い児童にとって、どのように生活していくことが良いのか、一人ひとりに関して、今後も支援を強めていただきたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の教員数の中では、精一杯組織的な推進を行っているところである。しかし、今後はより効果的・効率的な取り組みを行っていききたい。 ・課題をもつ児童に対して、児童の心に寄り添い、信頼関係を大切にし、きめ細かな指導を粘り強く行っていききたい。また、学級においては、児童同士がお互いに認め合うことができる学級風土づくりを、今後もめざしていききたい。 ・各関係機関との連携についても、即時性を大切にしながら、緊密な連携を図っていききたい。 		
	子どもの自己指導力育成と高めあう集団づくり	B							
	地域関係者、関係機関等との臨機な連携	A							
IV いのち、人権、思いやりを大切に作る心の育成									
心の教育	児童の実態把握と適切な指導	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の状態を問うアンケート調査（心の輝きチェック）を毎月行い、児童の実態把握及び指導に役立てている。 ・「学校に仲の良い友だちがいる」と答えた児童は99%（前年度比同数）、「困っている時、先生に相談できる」と回答した児童は71%（前年度比4%増）、「先生は、がんばったことをほめてくれる」と回答した児童は81%（前年度比2%減）、「子どもは先生に気軽に話しかけ、相談できる」と回答した保護者は83%（前年度比4%増）という結果である。 ・「しっかりと挨拶している」と答えた児童は88%（前年度比2%減）、「家庭でしっかりと挨拶できている」と答えた保護者も88%（前年度比2%増）となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・夢と希望をもって子どもたちが生き生きと生活していくにはどうしたらいいのだろうか。 ・挨拶運動を、先生が児童と共に取り組まれ、そこからまた、一人ひとりを思いやることにつながっていると思う。 ・どの項目にも肯定的な回答が多かったのはうれしいものですが、まだ、そうではないと考えている児童も多見られます。その児童への指導もお願いしたい。 ・心について、やさしい心・美しい心・優しい心など、良い方、悪い方の両方の意味を教えてほしい。 ・88%は、上出来です。 ・子どもにとって、友人の存在は大きな問題です。大人になっても、その思いは大きく残ってきます。 ・長所・短所をひっくるめて、認め合う集団づくりができればと思う。 ・ほとんどの児童が挨拶を返してくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導においても記述したが、容認・支援の学級風土づくりをめざしていききたい。また、いつでも、どこでも適切な挨拶を実践できるように指導を充実させていきたい。 		
	友だちや自分の良さに気づき認める指導	B							
	さわやかな挨拶の取り組み	B							
V 自立の基礎となる生きる力の育成									
特別支援	個別指導計画の作成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における課題をもつ児童については、個別指導計画を作成し、随時、修正を加えながら計画的に指導を行っている。特に特別支援教育支援員（1名）・自立支援サポーター（1名）が普通学級等で個別の児童支援を行っている。 ・特別支援教育サポーターを主に、担任、養護教諭等との情報交換を密に行い、適宜、ケース会議も開催するなど、教職員間の共通理解のもと指導している。 ・校内研修では、特別支援を要する児童の状況及び今後の指導のあり方等について全員で研修している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・先生方が、日々、抱えている問題の解決につながるような研修や外部からのアドバイスを得られるといいのでは。 ・A」とつけたのは、秘密にする部分をもとに扱うかということです。 ・社会で生きていくための力を身につけてやってほしい。そのための第一歩の教育の場であることを望む。 ・時間をかけて、じっくり指導や支援を実施していくしかないと感じている。がんばっていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をもつ児童に対して、今後も、保護者との信頼関係を構築し、関係機関等との連携も密に図りながら、地道な取り組みを粘り強く行っていききたい。 		
	組織的、計画的な特別支援教育体制の確立	B							
	巡回訪問等を活用した校内研修	B							
VI 地域とともに歩む信頼される学校づくり									
学校評価	自己評価結果の公表	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校協力者会議において、自己評価結果の公表と学校関係者評価をしていただいている。また、その結果の一部を学校便りを通して全保護者にお知らせすると共に、地域の全ての方々にも各自治会を通じて学校便りを回覧していただいている。 ・幼小連携については、1年の児童が積極的に園児とふれ合える機会を設定すると共に、委員会活動においても5・6年生が交流活動を行っている。 ・小中連携については、生徒指導に係る連携を密に行っている上、日吉サミットでの生徒会と児童会の連携も図っている。また、日吉中学校の先生による出前授業も行っていたいただいている。 ・月2回、スクールカウンセラーによる教育相談の機会を設定しており、3月2日現在の累計で、保護者22人、児童8人に利用いただいている。教育相談担当者及び担任が、適宜、保護者等に案内することにより、気軽に相談を受けていただいている。保護者等には、悩みの初期段階で解決していただいたり、解決への道筋と心構えをもってもらっていただいている。また、相談結果は、カウンセラーから担当者や担任にも知らせられ、担任の指導・支援のあり方にも大いに参考となっている。 ・子育て支援は、生徒指導上の課題を解決する上で家庭の教育力によるところも大きいことから大変重要であると考え。今年度も、児童相談所、津市子ども家庭課、坂本市市民会館、カウンセラー、主任児童委員等の方々のお力をお借りし、支援のあり方を示唆いただきながら取り組んでいる。 ・P学級委員さんのご努力により、保護者同士の交流等を意図した学級懇談会を設定していただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・素人考えでの発言や評価をすることにいつも申し訳ないと感じている。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・委員会交流は、積極的に来てくださっているので、子どもたちも楽しみにしている。短い時間でも一緒に遊べたことがうれしかったようだ。いろいろな人との出会い、交流は子どもたちにとって貴重な体験だと思う。 ・学校運営の要である。それぞれの機関との連携、支援、業務に取り組みされている。 ・関係機関との連携も、見立て、手立て、アセスメントをしっかりと共有したいものです。子育て支援については、「これから」といった感があります。学校園・地域と一緒に進めるべきもの。新興住宅地の方々にもどのように働き掛けていくか、課題だと思います。 ・核家族が増え、家庭の教育力が低下しているため、公教育の範囲が増大してきています。地域の状況、家族の様子など、必要に応じて、できる限り協力させていただきます。 ・子どもたちが縦のつながりをもつことは大変意義のある取り組みだと思う。今後は是非、このような取り組みを続けてほしいと思う。その他の取り組みの、どのひとつをとっても私たちがさへ何となく嬉しく感じてしまう。小学校が単に児童だけの教育の場ではなく、保護者の心のケアも同時に必要であることを再認識した次第である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については、学校関係者の方々との評価を厳粛に受け止め、次年度以降の学校経営の上で、具体的な手立てを講じ、改善に努めていきたい。 ・幼小小中連携については、現在行っている連携事業をより高めていくと共に、日吉中学校ブロック1年間を見通した幼児・児童・生徒の健全育成の観点から、今後の更なる取り組みを構築していきたい。 ・子育て支援においては、保護者の子育てに関わる悩みなどの把握と共に、その解決に向けた示唆がいただけるような取り組みを模索していきたい。 		
	学校関係者評価の実施	A							
	学校関係者評価結果の公表	B							
幼小小中連携	子ども校種間交流や教員の出前授業	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校協力者会議において、自己評価結果の公表と学校関係者評価をしていただいている。また、その結果の一部を学校便りを通して全保護者にお知らせすると共に、地域の全ての方々にも各自治会を通じて学校便りを回覧していただいている。 ・幼小連携については、1年の児童が積極的に園児とふれ合える機会を設定すると共に、委員会活動においても5・6年生が交流活動を行っている。 ・小中連携については、生徒指導に係る連携を密に行っている上、日吉サミットでの生徒会と児童会の連携も図っている。また、日吉中学校の先生による出前授業も行っていたいただいている。 ・月2回、スクールカウンセラーによる教育相談の機会を設定しており、3月2日現在の累計で、保護者22人、児童8人に利用いただいている。教育相談担当者及び担任が、適宜、保護者等に案内することにより、気軽に相談を受けていただいている。保護者等には、悩みの初期段階で解決していただいたり、解決への道筋と心構えをもってもらっていただいている。また、相談結果は、カウンセラーから担当者や担任にも知らせられ、担任の指導・支援のあり方にも大いに参考となっている。 ・子育て支援は、生徒指導上の課題を解決する上で家庭の教育力によるところも大きいことから大変重要であると考え。今年度も、児童相談所、津市子ども家庭課、坂本市市民会館、カウンセラー、主任児童委員等の方々のお力をお借りし、支援のあり方を示唆いただきながら取り組んでいる。 ・P学級委員さんのご努力により、保護者同士の交流等を意図した学級懇談会を設定していただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・素人考えでの発言や評価をすることにいつも申し訳ないと感じている。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・委員会交流は、積極的に来てくださっているので、子どもたちも楽しみにしている。短い時間でも一緒に遊べたことがうれしかったようだ。いろいろな人との出会い、交流は子どもたちにとって貴重な体験だと思う。 ・学校運営の要である。それぞれの機関との連携、支援、業務に取り組みされている。 ・関係機関との連携も、見立て、手立て、アセスメントをしっかりと共有したいものです。子育て支援については、「これから」といった感があります。学校園・地域と一緒に進めるべきもの。新興住宅地の方々にもどのように働き掛けていくか、課題だと思います。 ・核家族が増え、家庭の教育力が低下しているため、公教育の範囲が増大してきています。地域の状況、家族の様子など、必要に応じて、できる限り協力させていただきます。 ・子どもたちが縦のつながりをもつことは大変意義のある取り組みだと思う。今後は是非、このような取り組みを続けてほしいと思う。その他の取り組みの、どのひとつをとっても私たちがさへ何となく嬉しく感じてしまう。小学校が単に児童だけの教育の場ではなく、保護者の心のケアも同時に必要であることを再認識した次第である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については、学校関係者の方々との評価を厳粛に受け止め、次年度以降の学校経営の上で、具体的な手立てを講じ、改善に努めていきたい。 ・幼小小中連携については、現在行っている連携事業をより高めていくと共に、日吉中学校ブロック1年間を見通した幼児・児童・生徒の健全育成の観点から、今後の更なる取り組みを構築していきたい。 ・子育て支援においては、保護者の子育てに関わる悩みなどの把握と共に、その解決に向けた示唆がいただけるような取り組みを模索していきたい。 		
	校種間の合同研修会	B							
	校種間の授業公開	B							
子育て支援	保護者の子育てに対する積極的な支援	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校協力者会議において、自己評価結果の公表と学校関係者評価をしていただいている。また、その結果の一部を学校便りを通して全保護者にお知らせすると共に、地域の全ての方々にも各自治会を通じて学校便りを回覧していただいている。 ・幼小連携については、1年の児童が積極的に園児とふれ合える機会を設定すると共に、委員会活動においても5・6年生が交流活動を行っている。 ・小中連携については、生徒指導に係る連携を密に行っている上、日吉サミットでの生徒会と児童会の連携も図っている。また、日吉中学校の先生による出前授業も行っていたいただいている。 ・月2回、スクールカウンセラーによる教育相談の機会を設定しており、3月2日現在の累計で、保護者22人、児童8人に利用いただいている。教育相談担当者及び担任が、適宜、保護者等に案内することにより、気軽に相談を受けていただいている。保護者等には、悩みの初期段階で解決していただいたり、解決への道筋と心構えをもってもらっていただいている。また、相談結果は、カウンセラーから担当者や担任にも知らせられ、担任の指導・支援のあり方にも大いに参考となっている。 ・子育て支援は、生徒指導上の課題を解決する上で家庭の教育力によるところも大きいことから大変重要であると考え。今年度も、児童相談所、津市子ども家庭課、坂本市市民会館、カウンセラー、主任児童委員等の方々のお力をお借りし、支援のあり方を示唆いただきながら取り組んでいる。 ・P学級委員さんのご努力により、保護者同士の交流等を意図した学級懇談会を設定していただいた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・素人考えでの発言や評価をすることにいつも申し訳ないと感じている。 ・取り組み、成果共、よくやっていたいただいていると思います。 ・委員会交流は、積極的に来てくださっているので、子どもたちも楽しみにしている。短い時間でも一緒に遊べたことがうれしかったようだ。いろいろな人との出会い、交流は子どもたちにとって貴重な体験だと思う。 ・学校運営の要である。それぞれの機関との連携、支援、業務に取り組みされている。 ・関係機関との連携も、見立て、手立て、アセスメントをしっかりと共有したいものです。子育て支援については、「これから」といった感があります。学校園・地域と一緒に進めるべきもの。新興住宅地の方々にもどのように働き掛けていくか、課題だと思います。 ・核家族が増え、家庭の教育力が低下しているため、公教育の範囲が増大してきています。地域の状況、家族の様子など、必要に応じて、できる限り協力させていただきます。 ・子どもたちが縦のつながりをもつことは大変意義のある取り組みだと思う。今後は是非、このような取り組みを続けてほしいと思う。その他の取り組みの、どのひとつをとっても私たちがさへ何となく嬉しく感じてしまう。小学校が単に児童だけの教育の場ではなく、保護者の心のケアも同時に必要であることを再認識した次第である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価については、学校関係者の方々との評価を厳粛に受け止め、次年度以降の学校経営の上で、具体的な手立てを講じ、改善に努めていきたい。 ・幼小小中連携については、現在行っている連携事業をより高めていくと共に、日吉中学校ブロック1年間を見通した幼児・児童・生徒の健全育成の観点から、今後の更なる取り組みを構築していきたい。 ・子育て支援においては、保護者の子育てに関わる悩みなどの把握と共に、その解決に向けた示唆がいただけるような取り組みを模索していきたい。 		
	保護者の悩みを聞く個別相談の実施	A							
	保護者同士の交流や学習の場を意図した参観懇談会の実施	B							

○囲みは、7つの徹底